

令和3年度「志教育」実践事例

宮城県泉館山高等学校

1 館山タイム

はじめに

平成15年度、「学校活性化プロポーザル事業」の一環としてはじまった「朝の読書」も、令和3年度で19年目となる。泉館山夢実現サポートプラン「大志21」の大きな柱（「自分を磨く力・人間力の育成」の一つとして機能し、さらに「大志2030」へとコンセプトを引き継いだ。本校では、この朝の読書活動を「館山タイム」と呼び、「志教育」における「かかわる」「もとめる」の視点をもった具体的活動として位置づけ、学年共通で取り組んでいる。

(1) 目的

- ① 多様性豊かなトピックスに触れ、知的好奇心を高める。
- ② 新聞などの切り取り資料で、現代社会の情勢や問題点について認識を深める。
- ③ 限られた時間で文章を読み、理解する能力を高める。
*上記に加え、資料（読み物）を仲立ちとして教職員と生徒がコミュニケーションを図っていくということや、年間をとおして、落ち着いた雰囲気での一日の生活を始めることなども、副次的な効果として期待している。

(2) 実施内容

- ① 朝8:30～8:40（SHR前の10分間）に行う。
週番がクラスボックスから資料を持っていき全員に配付する。
- ② 原則として、各週の初めの2日間は「学年裁量の日」とし、そのうちの1日は国語・英語・数学の小テストを実施する。また、もう1日については各学年の裁量時間とし、その内容は各学年に任せる。
- ③ 上記②以外の日には「先生方の手作り資料」を読む時間とする。生徒はこの手作り資料を読んだ上で、別紙の「コメント用紙」に感想・意見等を簡単に記す。尚、各担任はこの「コメント用紙」を適宜回収し、クラス生徒の状況を確認・把握できるものとする。
- ④ 年に10回程度図書情報部で用意した「100字要約」及び評論、小説、古典分野の「速読」を実施する。またいずれも回収して、担任段階で検印等を押した上で生徒に返却する。こうした記述の積み重ねを継続的に行い、表現力、語彙力、読解力をアップさせる。
- ⑤ 毎回のプリントはファイルに綴じておく。ファイルは学校で用意する。
- ⑥ 連絡、読書、自習（定期考査前）などの時間も設ける。
- ⑦ 3年生の「館山タイム」は前期までとする。

(3) 令和3年度の取り組み

- ① 100字要約を書く「文章要約課題」を6回、「速読」を6回行った。
- ② 校内ビブリオバトルのための準備の週を設けて発表原稿の下書きを作成した。

2 校内ビブリオバトル

(1) 目的

- ① ゲームをとおして書籍への理解と関心を高める。
- ② 互いの興味対象を知り他者への尊重の心を涵養し、発表や会話をとおしてコミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。

(2) 実施内容

① 日時

- ア 準備 令和3年12月14日(火)～17日(金) 館山タイム
イ 班予選 令和3年12月17日(金) LHR
ウ クラス決勝 令和4年 1月 7日(金) LHR
エ 学年決勝 令和4年 1月14日(金)～31日(月) YouTubeを見て投票する

② 場所

各教室

③ 対象

1・2年生全員

④ 内容

ア 事前準備(12月14日館山タイムで連絡)

「私のお薦めの本」を各自1冊選び、12/14～17までの館山タイムを使って、「私のお薦め本」に紹介文を書く。(紹介文はビブリオバトル終了後に回収)

イ 12月17日(金) 6校時LHR

- ・各班において、本を掲げて一人3分で本の紹介をする。発表後、質問タイム2分。
- ・すべての発表が終わった後に「どの本が読みたくなったか」を基準とした投票を班ごとに行う。本人は自分に投票しない。投票方法については、1位と思った人を一斉に指さす方式が早い。その際に2位を決めておくこと。(1位の人が欠席の場合は発表する)
⇒図書委員は決勝進出者以外の生徒の「紹介文」を回収し、図書室(司書)に提出する。

ウ 1月7日(金) 6校時LHR

- ・各班の代表者は教卓のところで持参した本を掲げて発表する。
- ・一人3分で発表し、その後2分間の質問タイムを設ける。
- ・全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした投票を行う。クラス全体の挙手によって行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。
- ・時間があれば、正(副)担任の先生の「お薦めの本」を聞いてみる。
⇒図書委員は決勝進出者の「紹介文」を回収し、図書室(司書)に提出する。
クラス優勝者の発表動画視聴後、クラッシュで投票し学年優勝者を決定する。

(3) 来年度に向けて(アンケートの自由記述から)

(1年)・普段本を読まないけれど、いろいろな本について知れたので楽しかった。読んでみたいと思う本も結構あったので、これを機に本をよむようにしようと思った。

・本の面白さを言語化する難しさとそれができていた人たちの凄さがわかった。

(2年)・去年よりみんなのビブリオバトルのレベルが上がっていて驚いたし、とても楽しかった。

・昨年はクラス内でのみだったが、今年は学年内で行われ、より多くの本を知ることができたのでより面白かった。自分ではなかなか手に取ることのないジャンルの本にも触れる機会になったと思う。

(教員)・YouTubeでクラス代表生徒の発表を見ることができたのはよかったです(担当の先生は大変かもしれませんが)。普段から継続して活字を読む習慣を持ってほしいと思いますが、ビブリオバトルがそのきっかけになるのではと思います。また、自分が興味を持つものを熱意を持って紹介する機会も生徒にとってはいい経験になると思います。